

マテリアルな側面の特定

積水ハウスグループは、ステークホルダーや社会の期待に応えながら本業を通じたCSR活動に注力し、価値を創造することにより、持続可能な発展を目指しています。

ステークホルダーや社会にとって重要なことは何かを常に意識し活動することが、価値創造につながると考えます。

「ステークホルダーの声」と「社会的影響」に配慮し、マテリアルな側面を特定

2015年に、GRIガイドライン(G4)の特定標準開示項目における46側面のうち、30側面をマテリアルな側面と特定しました。そして2016年には、社会の変化・ニーズなどを踏まえ、「ステークホルダーの評価や意思決定への影響」と「会社の経済、環境、社会影響の著しさ」の両面から再分析

し、優先順位付けを行いました。

その結果、19の項目をマテリアルな側面(下図)と特定。CSV戦略にも関連する重要側面として、活動に取り組んでいきます。CSV戦略とマテリアルな側面との関係はP.20をご覧ください。

■ マテリアルな側面(重要課題)の特定プロセス

1 GRIガイドライン(G4)の特定標準開示項目における46側面の優先順位付け

優先順位付けにあたっては「ステークホルダーの声や評価」に関する各種調査結果やG4の要求事項と当社グループの理念、中期経営計画などを判断材料としました。

- ステークホルダーの評価や意思決定への影響
- お客様へのアンケート調査結果(入居後1年)
 - 従業員のガバナンス意識調査結果
 - 取引先への調査結果
 - SRI等の評価項目
 - GRIガイドライン(G4)のSector Disclosureで開示が求められている項目

- 会社の経済、環境、社会影響の著しさ
- 企業理念/行動規範/企業行動指針/企業倫理要項
 - サステナブル・ビジョン
 - 中期経営計画
 - エコ・ファーストの約束

2 重要課題の妥当性の確認

検討課題の網羅性、バランス、将来的な重要課題の取り込みを社内で検討し、グループ内の承認を得ました。

グループ内での承認
CSR委員会(会長が委員長)で審議し、重要課題について承認を得ました。

3 目標設定とレビュー

19の重要課題に対して、G4の指標を設定し、開示・レビューを進めます。

■ 「ステークホルダー」と「社会への影響」から見たマテリアルな側面(重要課題)

★が特定した19の側面

